

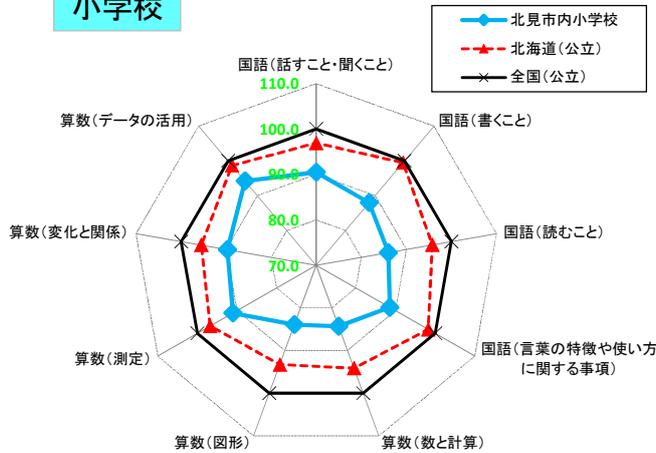
■北見市内の状況及び学力向上策（小学校数:24校、児童数:790人）（中学校数:14校、生徒数:805人）

【教科全体の状況】

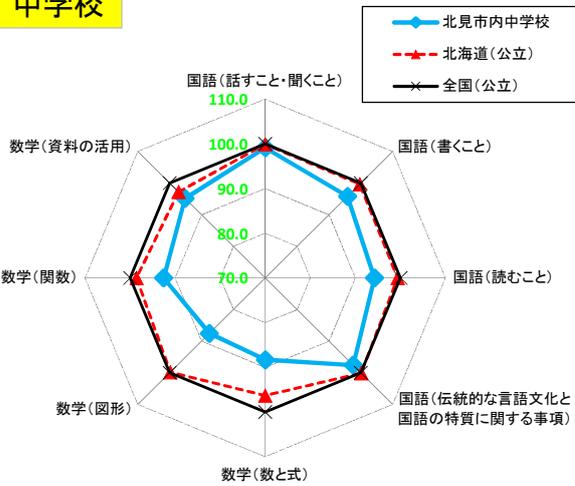
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	57	63
算数・数学	63	52

小学校

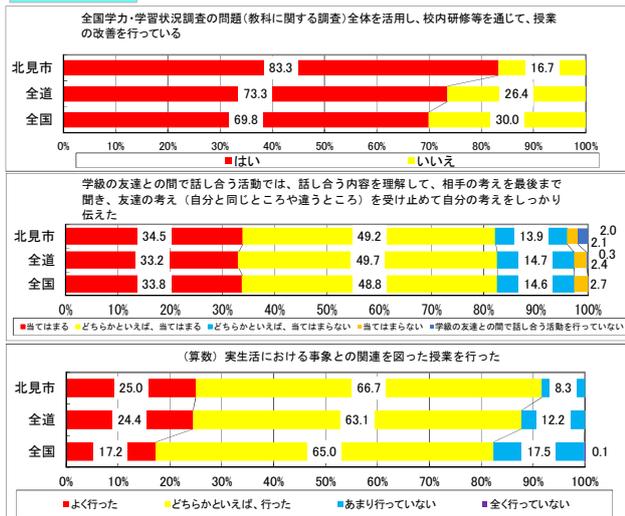


中学校

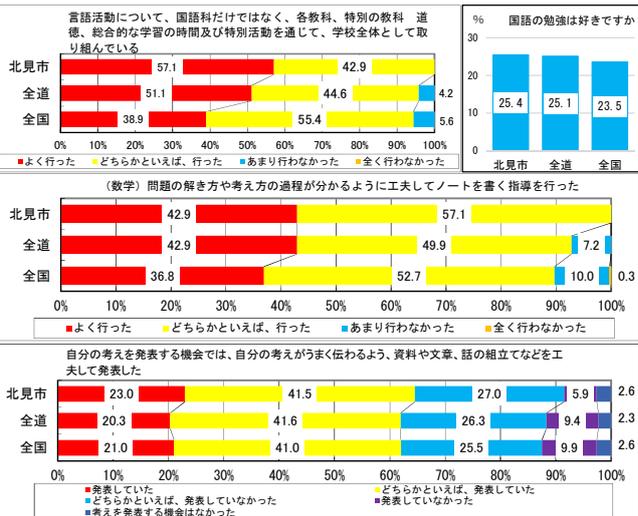


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

全国学力・学習状況調査の問題(教科に関する調査)全体を活用し、校内研修等を通じて、授業を活用し、校内研修等を通じて、授業の改善を行ったことにより、学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え(自分と同じところや違うところ)を受け止めて自分の考えをしっかりと伝えたと回答した児童の割合が、全国及び全道を上回るとともに、国語では、「話すこと・聞くこと」で全国の平均正答率に最も近くなっていると考えられる。

算数の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、学習内容の理解が深まり、算数では、「データの活用」で全国の平均正答率に最も近くなっていると考えられる。

中学校

言語活動について、国語科だけでなく、各教科、特別の教科 道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んだことにより、国語の勉強は好きと回答した生徒の割合が、全国及び全道の割合を上回るとともに、国語では、「話すこと・聞くこと」で全国の平均正答率に最も近くなっていると考えられる。

数学の授業において、問題の解き方や考え方の過程が分かるように工夫してノートを書く指導を行ったことにより、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表したと回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回るとともに、数学では、「資料の活用」で全国の平均正答率に最も近くなっていると考えられる。

【北見市の学力向上策】

- ◎ 「北見市学力向上3つのスタンダード」(学習環境をつくる・指導技術をみがく・指導方法を工夫する)の取組の推進
- ◎ 端末を活用した子どもたち一人一人の反応を踏まえた双方向型の授業の実践
- ◎ 教職員の授業力・指導力向上に向けた指導力向上推進事業等の研修会の実施
- ◎ 家庭と連携した学習習慣の確立と望ましい生活環境づくりの取組

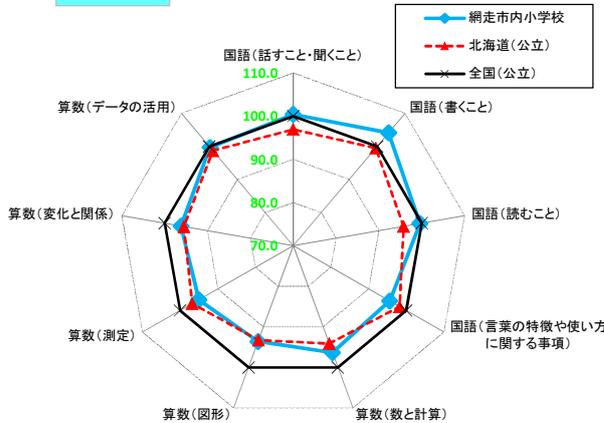
■網走市内の状況及び学力向上策（小学校数：9校、児童数：254人）（中学校数：6校、生徒数：245人）

【教科全体の状況】

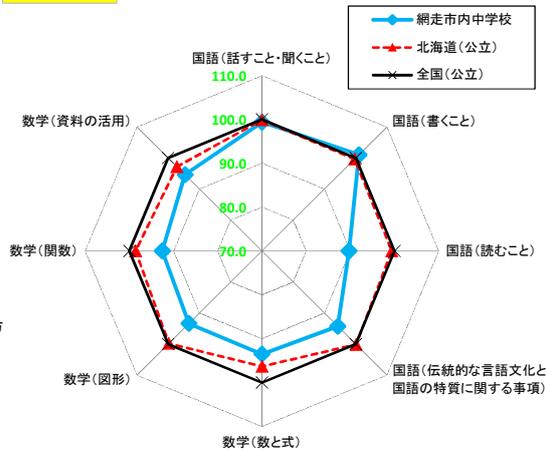
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	64	62
算数・数学	68	53

小学校

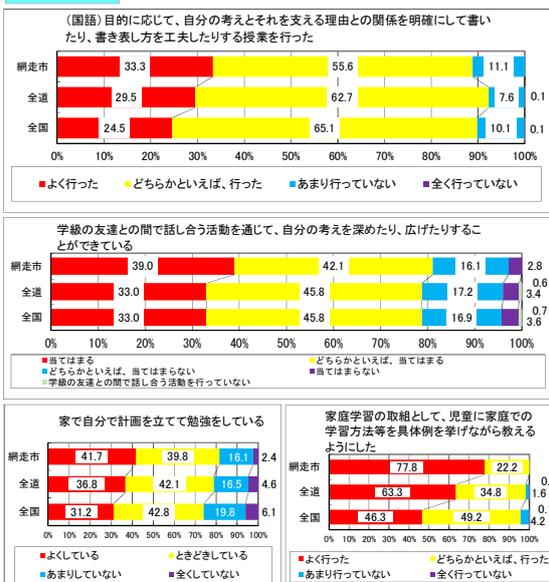


中学校

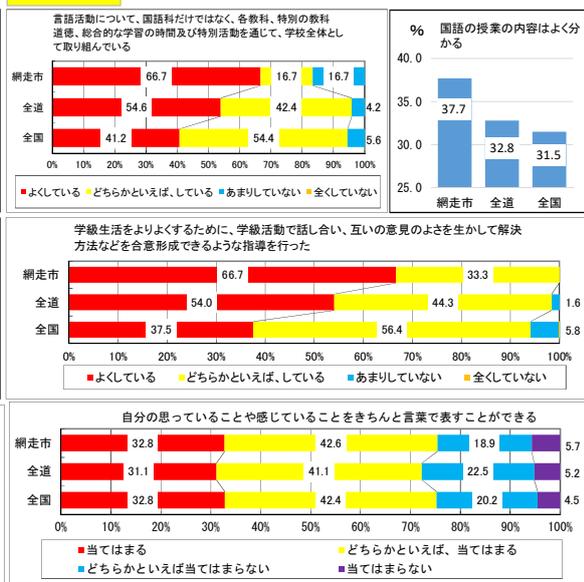


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして書いたり、書き表し方を工夫したりする授業を行ったことにより、学習内容の理解が深まり、「書くこと」で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

市全体で、授業改善に関わる研修会を開催し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組んだことにより、授業では、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広めたりすることができていると回答した児童の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。

児童に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにしたことにより、家で自分で計画を立てて勉強をしていると回答した児童の割合が、全国及び全道の割合を上回ったと考えられる。

中学校

言語活動について、国語科だけでなく、各教科、特別の教科 道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んだことにより、国語の授業の内容がよく分かることと回答した生徒の割合が、全国及び全道の割合を上回るとともに、国語の「書くこと」で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

市内の各中学校において、学級生活をよりよくするために、学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を合意形成できるような指導を行ってきたことにより、自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができることと回答した生徒の割合が、全道を上回ったと考えられる。

【網走市の学力向上策】

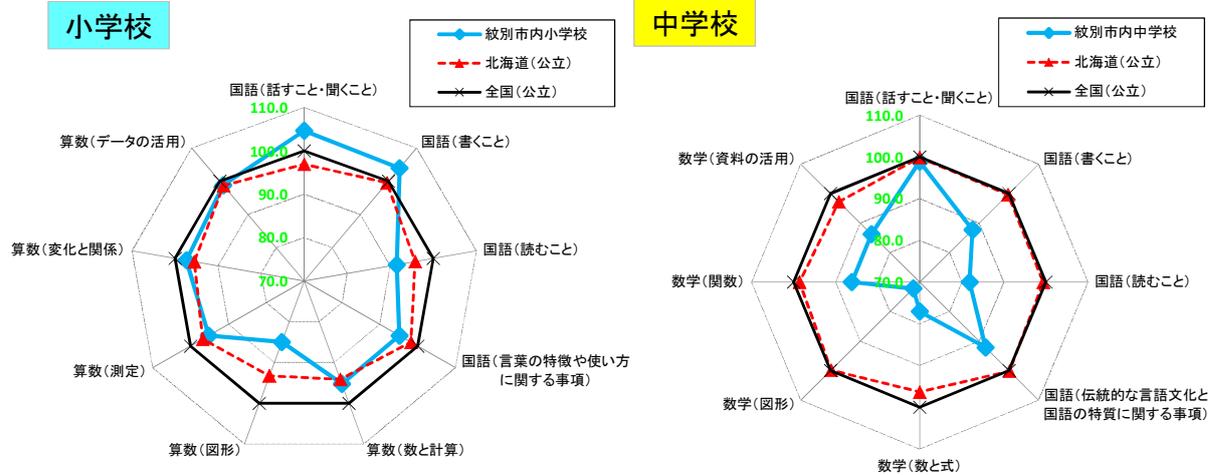
- ◎ 市内全校の公開研究会の実施及び各研究会や研修会への教職員の参加などによる学習指導方法の工夫改善の取組
- ◎ 基礎・基本の定着に向けた算数科における学習支援員の配置による少人数指導の実施
- ◎ 家庭における学習習慣を確立するための生活リズムチェックシートの積極的な活用
- ◎ 1人1台端末等ICT機器を効果的に活用した授業改善のための調査研究及び研修会等の実施

■紋別市内の状況及び学力向上策（小学校数:6校、児童数:111人）（中学校数:3校、生徒数:118人）

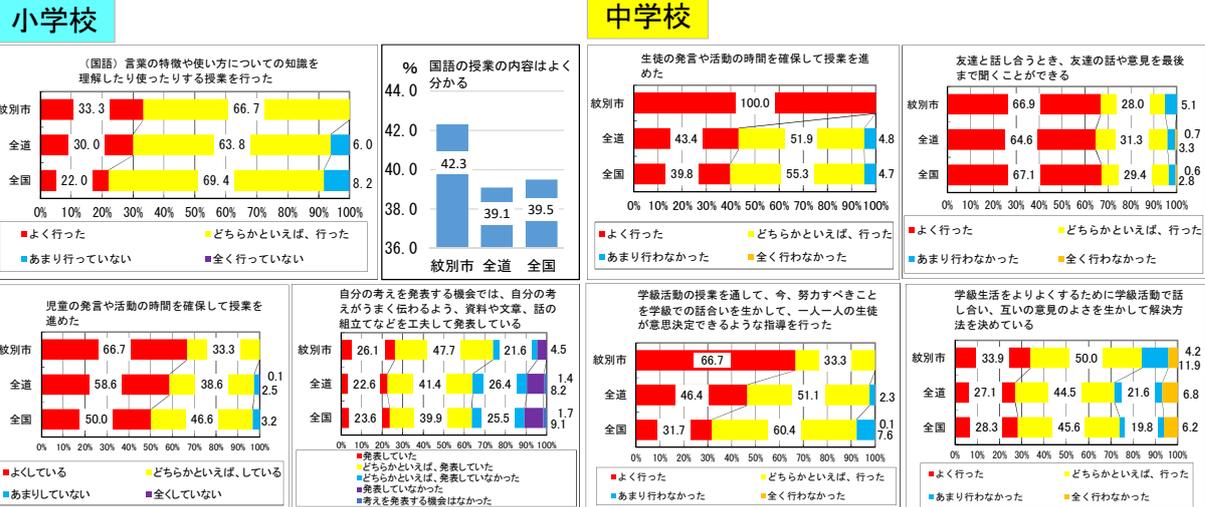
【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	64	59
算数・数学	67	46



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
<p>国語の授業において、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業を行ったことにより、学習内容の理解が深まり、国語の授業の内容がよく分かると回答した児童の割合が、全国及び全道を上回るとともに、国語では、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」で、全国の平均正答率を上回ったと考えられる。</p> <p>児童の発言や活動の時間を確保して授業を進めたことにより、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していると回答した児童の割合が、全国及び全道を上回るとともに、算数では、「データの活用」で、全国に最も近くなったと考えられる。</p>	<p>生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めたことにより、友達と話し合うとき、友達の話を最後まで聞くことができると回答した生徒の割合が、全道を上回るとともに、国語では、「話すこと・聞くこと」で全国の平均正答率に最も近くなったと考えられる。</p> <p>市内の各中学校において、学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の生徒が意思決定できるような指導を行ったことにより、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。</p>

【紋別市の学力向上策】

- ◎ 「紋別市教育向上プロジェクト(MKP)会議」による学力向上・GIGAスクールに関する小中連携
- ◎ 教職員研修事業(「MKP研修シリーズ」「MKPフォーラム」他)の実施
- ◎ 学校図書館司書の全校配置(一部常駐)、学校図書充実による学校図書館の活用促進
- ◎ 学力知能状況調査事業による全学年の学力等の分析
- ◎ EdTech、読解力向上プロジェクトなど、外部機関との連携による学力向上策の実施
- ◎ 教育委員会、総合教育会議による住民、地域の学力に関する意識の醸成

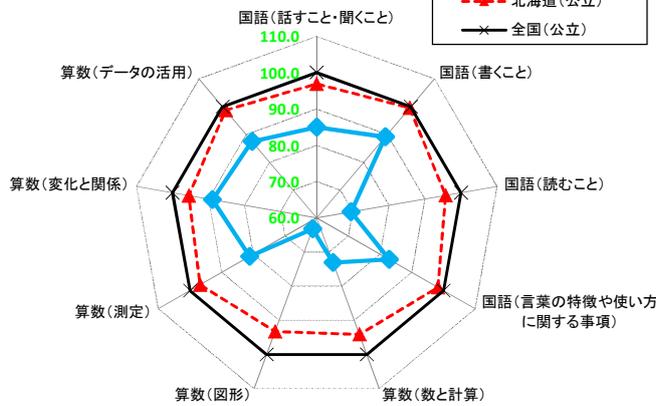
■美幌町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:123人）（中学校数:2校、生徒数:153人）

【教科全体の状況】

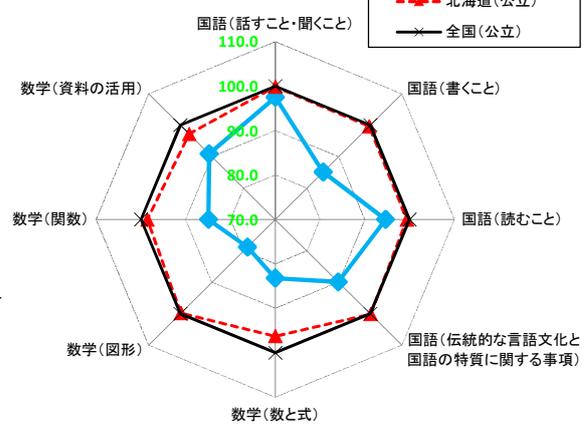
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	53	59
算数・数学	57	48

小学校

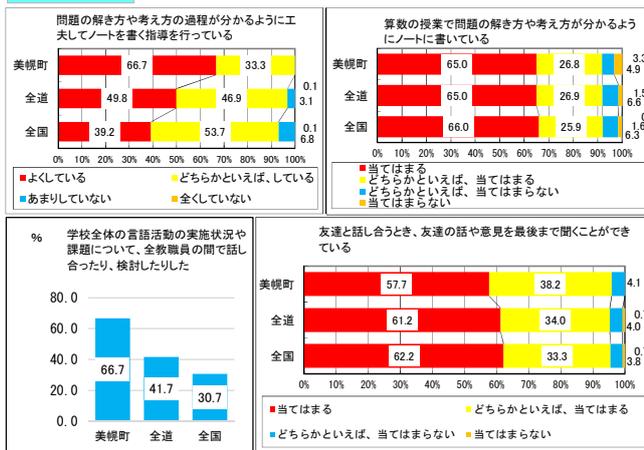


中学校

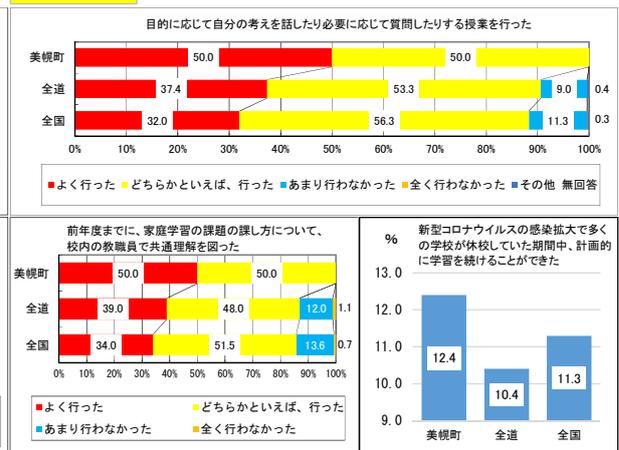


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

算数の授業において、問題の解き方や考え方の過程が分かるように工夫してノートを書く指導を行ったことにより、算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていると回答した児童の割合が、全国及び全道と同様になるとともに、算数では、「変化と関係」で全国の平均正答率に最も近くなったと考えられる。

町内の各小学校において、学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしたことにより、友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができるという回答した児童の割合が、全国に近くなっていると考えられる。

中学校

目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行ったことにより、国語では、「話すこと・聞くこと」で全国の平均正答率に最も近くなったと考えられる。

前年度までに、家庭学習の課題の課し方について、校内の教職員で共通理解を図ったことにより、新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができたという回答した生徒の割合が、全国を上回ったと考えられる。

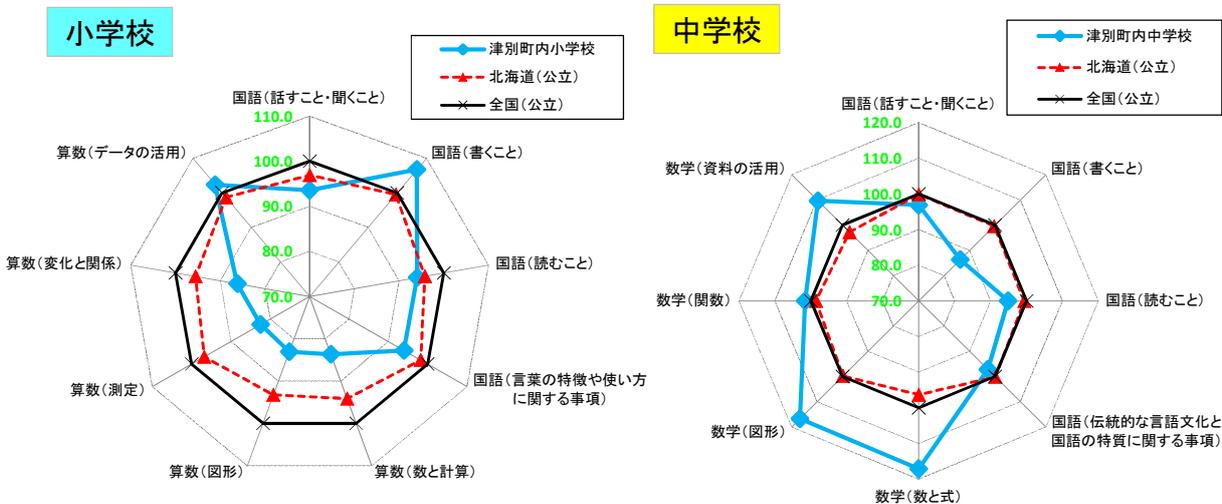
【美幌町の学力向上策】

- ◎ 家庭と連携した学習習慣の確立と望ましい生活習慣づくりの取組
- ◎ 家庭における学習習慣を確立するための「家庭学習の指標」の作成と積極的な活用
- ◎ 若手教職員の授業力・指導力向上に向けた研修交流会の実施
- ◎ 1人1台端末の「持ち帰り実証実験」の実施

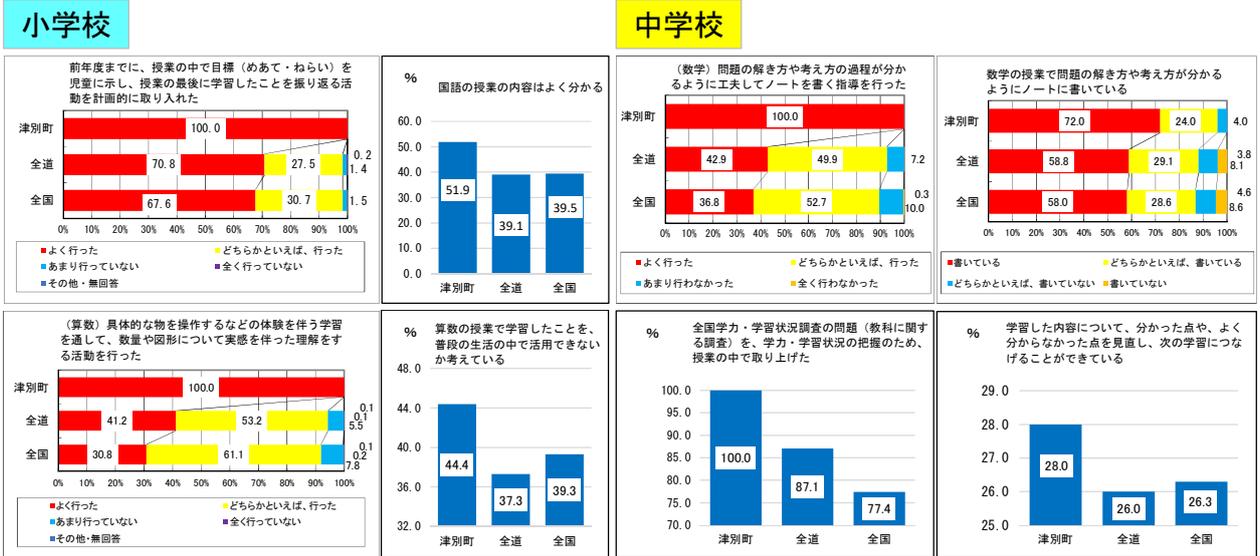
■津別町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:27人）（中学校数:1校、生徒数:25人）

【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものの（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
<p>国語の授業において、授業の中で目標（めあて・ねらい）を児童に示し、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れたことにより、国語の授業の内容はよく分かることと回答した児童の割合が、全国及び全道を上回るとともに、国語では、「書くこと」で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。</p> <p>算数の授業において、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を持った理解をする活動を行ったことにより、算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えていると回答した児童の割合が、全国及び全道を上回るとともに、算数では、「データの活用」で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。</p>	<p>数学の授業において、問題の解き方や考え方の過程が分かるように工夫してノートを書く指導を行ったことにより、問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていると回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回るとともに、数学では、全ての領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。</p> <p>全国学力・学習状況調査の問題（教科に関する調査）を、学力・学習状況の把握のため、授業の中で取り上げ、授業改善を図ったことにより、学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていると回答した生徒の割合が、全国を上回ったと考えられる。</p>

【津別町の学力向上策】

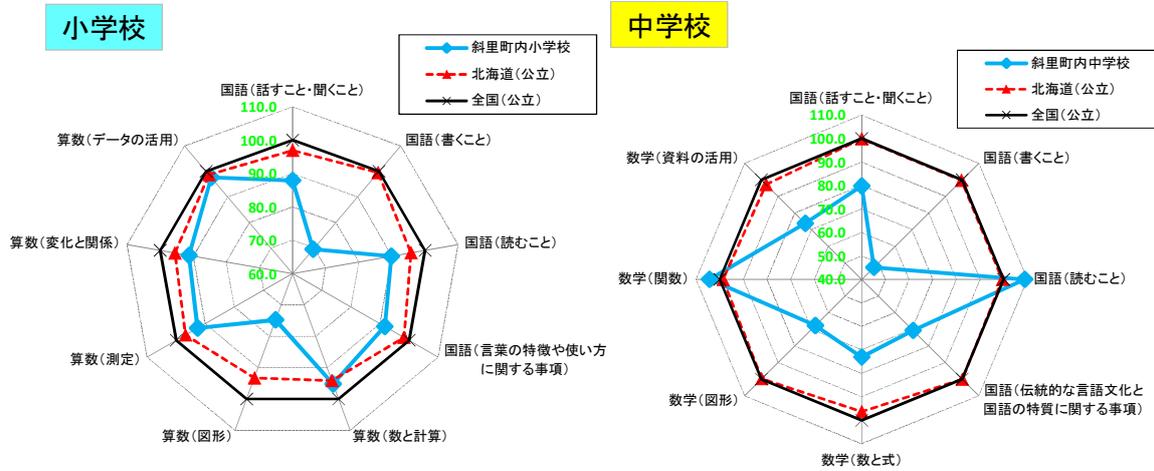
- ◎ 「主体的・対話的で深い学び」の推進
- ◎ ICT教育環境の整備
- ◎ 学校図書館の充実
- ◎ 家庭学習の習慣化

■斜里町内の状況及び学力向上策（小学校数：3校、児童数：77人）（中学校数：2校、生徒数：89人）

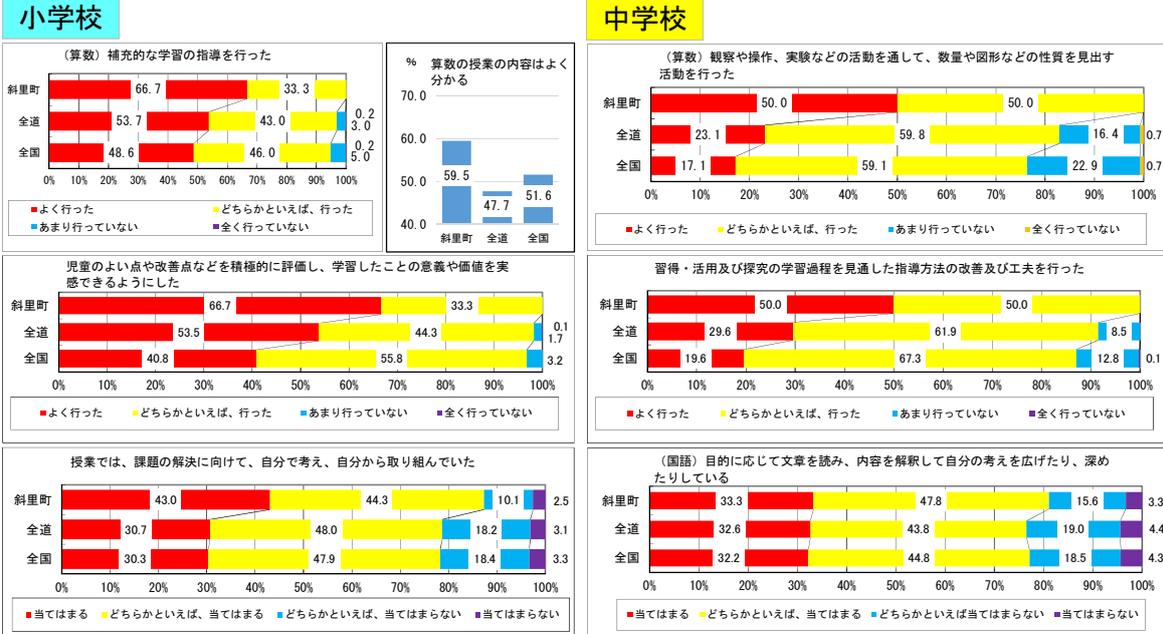
※新型コロナウイルス感染症の影響で後日実施したデータは、今回の調査結果に含めています。

【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
算数の授業において、補充的な学習を行ったことにより、学習内容の理解につながり、算数の授業の内容はよくわかると回答した児童の割合が、全国及び全道を上回るとともに、「データの活用」で全国に最も近くなっていると考えられる。	数学の授業において、観察や操作、実験などの活動を通して数量や図形などの性質を見出す活動を行ったことにより、学習内容の理解が深まり、「関数」で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。
前年度までに、児童のよい点や改善点などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにしたことにより、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいると回答した児童の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。	前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしたことにより、目的に応じて文章を読み、内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりしていると回答する生徒の割合が、全国及び全道を上回るとともに、「読むこと」で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

【斜里町の学力向上策】

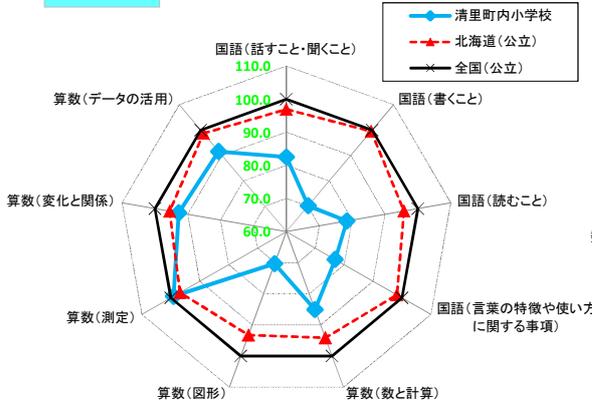
- ◎ 義務教育学校における小中一貫教育及び中学校を軸とした小中連携教育の充実
- ◎ 町内全校における、特色ある学校づくりを支援する校長提案型事業の実施
- ◎ 1人1台端末などICT機器を積極的に活用した授業改善の推進
- ◎ 教育活動支援講師の配置と放課後や長期休業中の学び直しの機会の提供等、きめ細かな学習環境の整備
- ◎ 学習習慣や生活習慣の定着を目指した年8回の土曜授業の実施

■清里町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:27人）（中学校数:1校、生徒数:28人）

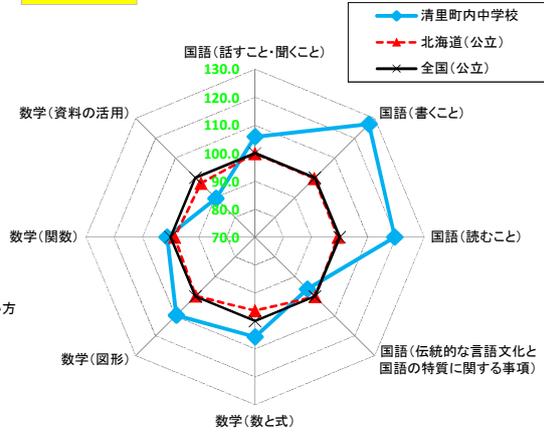
【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

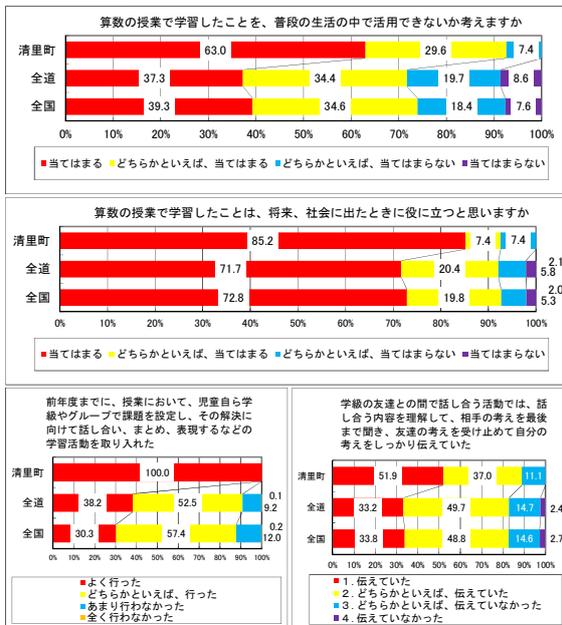


中学校

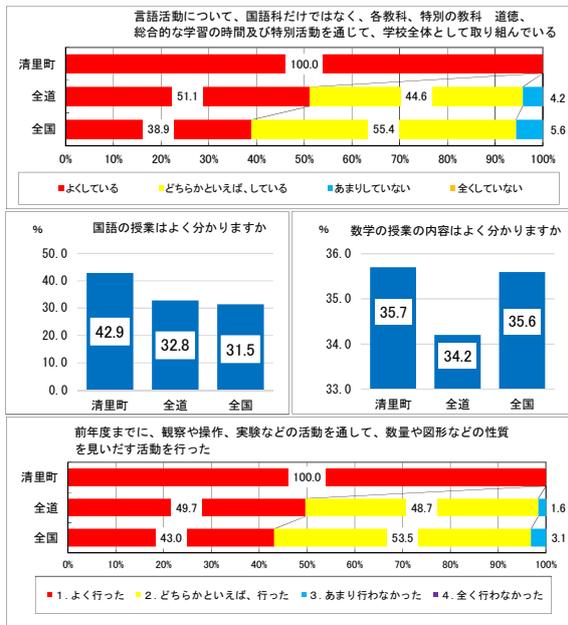


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

算数の授業において、学習したことを普段の生活の中で活用できないかを考えさせる授業の工夫を行ったことにより、算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと回答した児童の割合が、全国及び全道の割合を上回るとともに、算数では、「測定」で全国の平均正答率と同様になったと考えられる。

児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたことにより、学級の友達との間で話し合う活動で、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考えを受け止めて自分の考えをしっかりと伝えていたと回答する児童の割合が、全国を上回ったと考えられる。

中学校

言語活動について、国語科だけでなく、各教科、特別の教科 道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んだことにより、国語の授業の内容はよく分かったと回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回るとともに、国語では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

数学の授業において、前年度までに、観察や操作、実験などの活動を通して、数量や図形などの性質を見いだす活動を行ったことにより、学習内容の理解が深まり、「数と式」「関数」「図形」で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

【清里町の学力向上策】

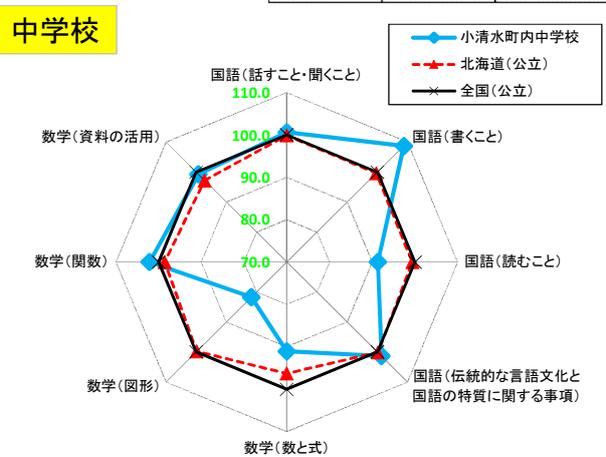
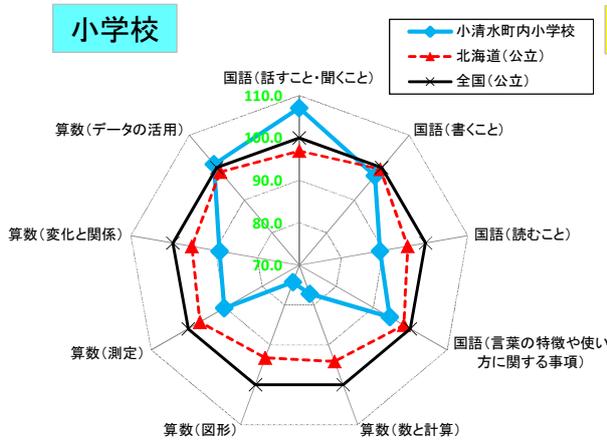
- ◎ 小学校・中学校・高等学校の連携による長期休業期間中の補充的な学習サポート教室の実施
- ◎ 個別支援や習熟度別指導のための支援員の配置
- ◎ 小学校・中学校・高等学校への外国人英語講師の派遣
- ◎ ICT機器を活用した効果的な授業改善を推進するために大型提示装置（プロジェクター、大型テレビなど）の設置

■小清水町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:38人）（中学校数:1校、生徒数:22人）

【教科全体の状況】

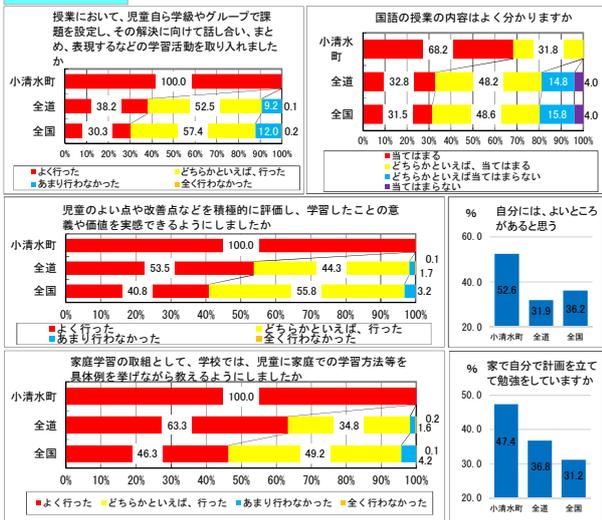
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものと（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	63	65
算数・数学	62	53

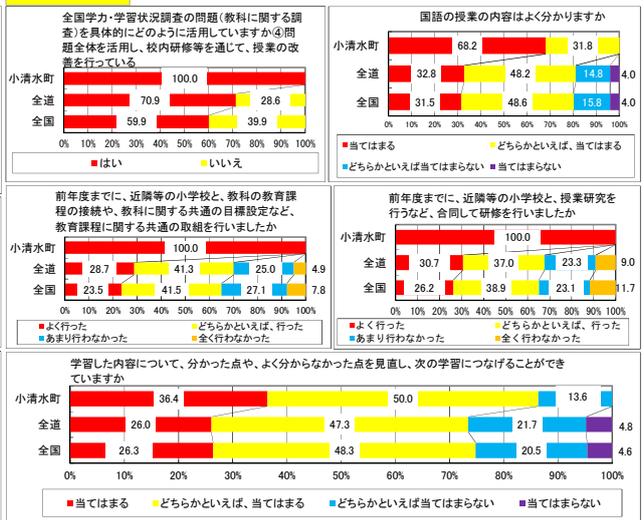


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

前年度までに、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたことにより、国語の授業がよく分かったと回答した児童の割合が、全国及び全道を上回るとともに、国語では、「話すこと・聞くこと」で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

児童のよ点や改善点などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できる指導を行ったことにより、自分には、よいところがあると思うと回答した児童の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。

家庭学習の取組として、学校では、児童に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教える取組を行ったことにより、家で自分で計画を立てて勉強をすると回答した児童の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

全国学力・学習状況調査の問題全体を活用し、校内研修等を通じて、授業の改善を行ったことにより、国語の授業がよく分かったと回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回るとともに、国語では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

近隣等の小学校と教科の教育課程の接続や教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行ったり、授業研究を行うなど合同して研修を行ったりすることにより、生徒の主体的に学ぶ力が育成され、学習した内容について、分かった点や、よく分らなかった点を見直し、次の学習につなげることができていると回答する生徒の割合が、全国及び全国を上回ったと考えられる。

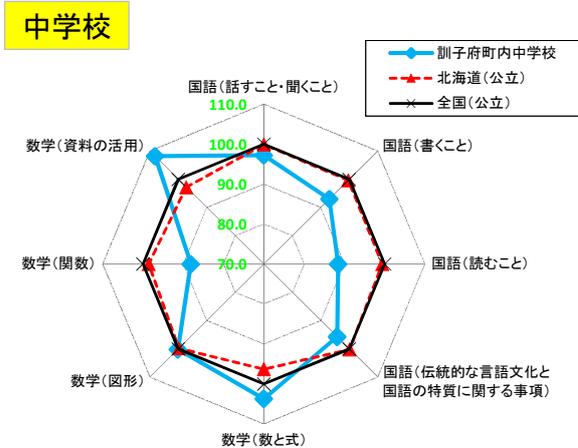
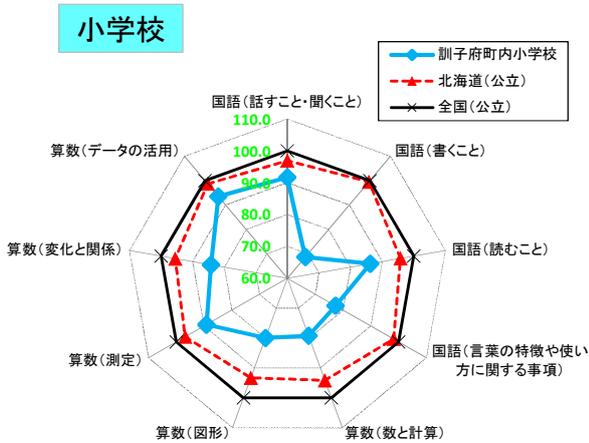
【小清水町の学力向上策】

- ◎ 土曜授業の実施による反復学習の時間の確保
- ◎ 小中一貫教育による義務教育9年間の系統性・連続性に配慮した教育課程の編成と実践
- ◎ 家庭と関連した学習習慣の確立と望ましい生活習慣づくりの取組
- ◎ 1人1台端末を効果的に活用した授業改善の推進

■訓子府町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:36人）（中学校数:1校、生徒数:49人）

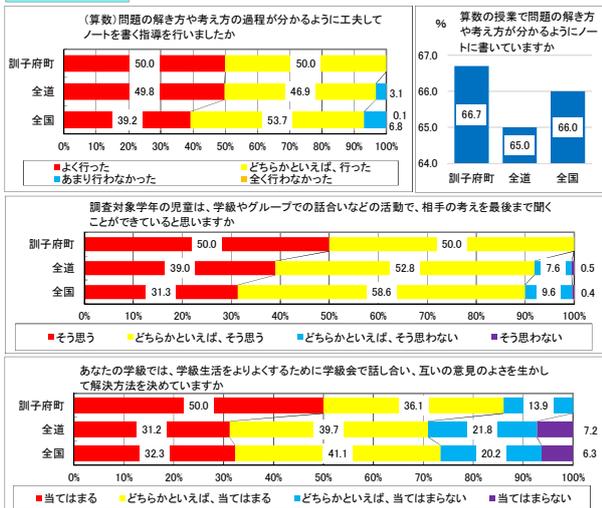
【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

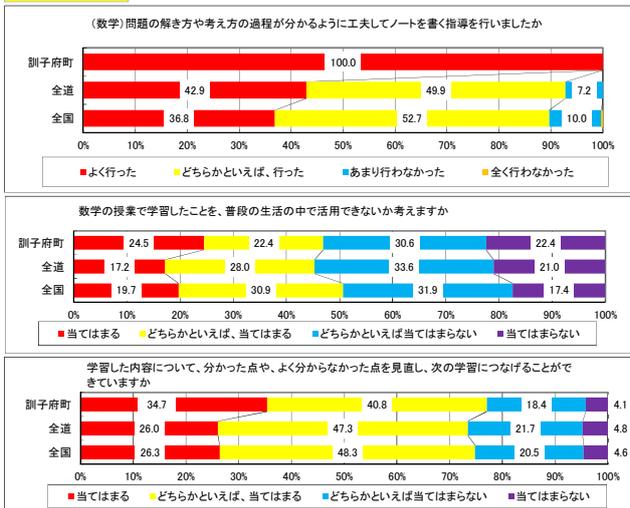


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

算数の授業で、前年度までに問題の解き方や考え方の過程が分かるように工夫してノートを書く指導を行ったことにより、算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていると回答した児童の割合が、全国及び全道を上回るとともに、算数では、「データの活用」で全国に最も近くなったと考えられる。

学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことを指導したことにより、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると回答した児童の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

数学の授業で、問題の解き方や考え方の過程が分かるように工夫してノートを書く指導を行ったことにより、学習内容の理解が深まり、数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えると回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回るとともに、数学では、「数と式」「図形」「資料の活用」で、全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができるよう指導したことにより、学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていると回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。

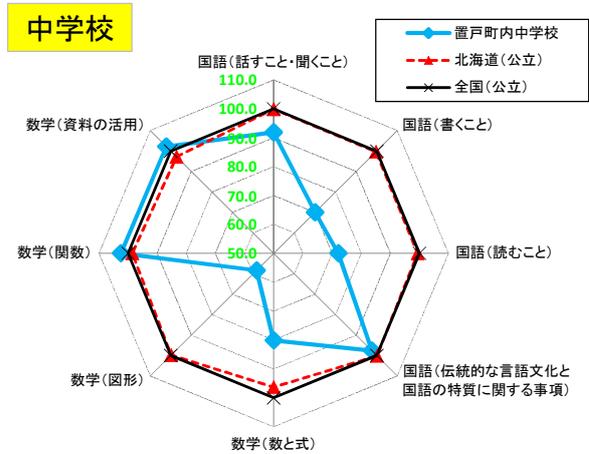
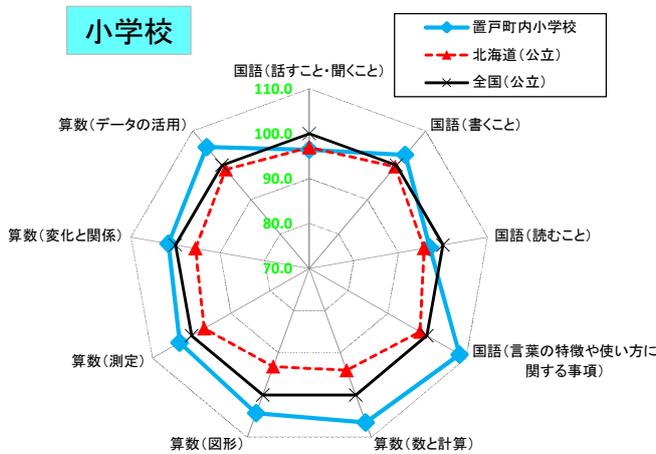
【訓子府町の学力向上策】

- ◎ 町費負担臨時講師を活用したチーム・ティーチングや習熟度別少人数指導の充実
- ◎ 算数専科加配教諭による指導の充実
- ◎ 放課後や長期休業中の学習サポートの継続的な実施
- ◎ 児童生徒の読書意欲の向上を図る図書室の整備と蔵書数の充実
- ◎ 地域の多様な人材や施設などの地域資源を生かした教育の充実
- ◎ タブレット等のICTを活用した学びを深める授業の充実

■置戸町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:16人）（中学校数:1校、生徒数:15人）

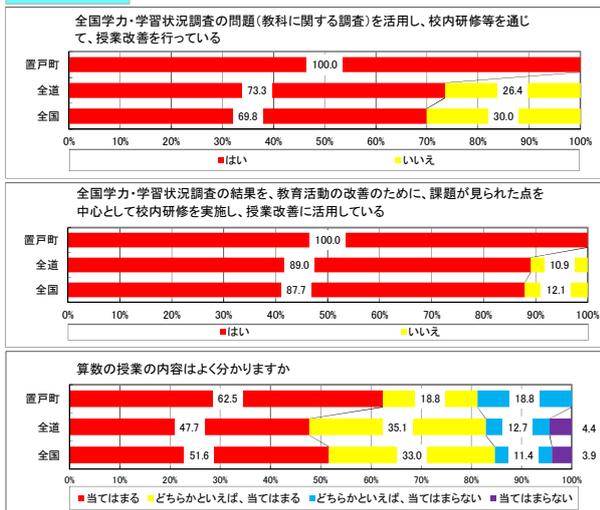
【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

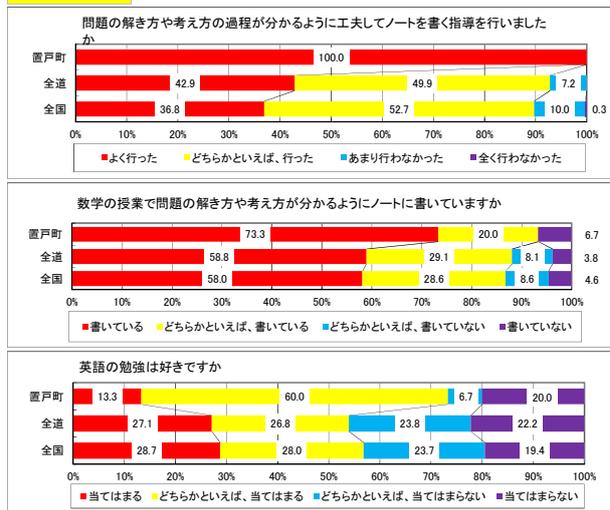


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
全国学力・学習状況調査の問題を活用し、校内研修等を通じて、授業改善を行ったことにより、国語では、「書くこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」で、全国の平均正答率を上回ったと考えられる。
全国学力・学習状況調査の問題を、教育活動の改善のために、課題が見られた点を中心として校内研修を実施し、授業改善に活用することにより、算数の授業の内容はよく分かれると回答した児童の割合が、全国及び全道を上回るとともに、算数では、全ての領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

中学校
数学の指導として、問題の解き方や考え方の過程が分かるように工夫してノートを書く指導を行ったことにより、「関数」「資料の活用」で、全国の平均正答率を上回ったと考えられる。
町全体で、外国語教育の充実を図るための外国語指導助手の派遣に取り組むことにより、英語の勉強が好きだという質問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答する生徒の割合が、全道及び全国を上回ったと考えられる。

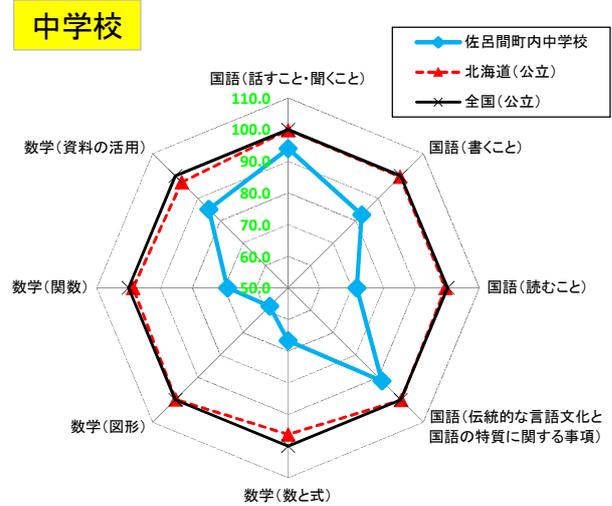
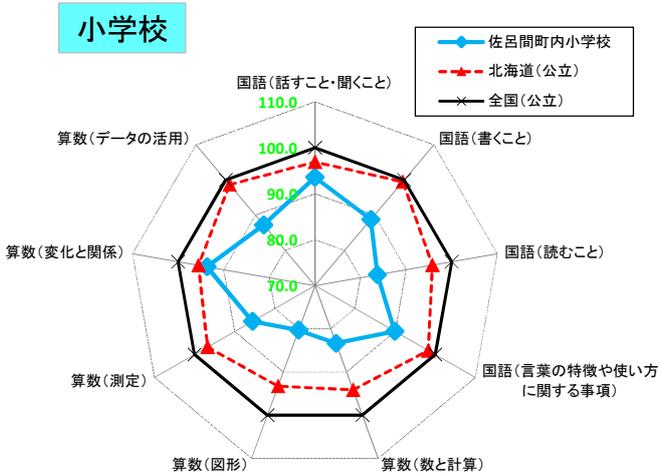
【置戸町の学力向上策】

- ◎ 小・中学校で連携した学習規律「置戸スタンダード」の取組
- ◎ 小中一貫教育の一環として、中学校の英語教員が小学校で乗り入れ授業を実施
- ◎ 児童の基礎学力の定着に向けた学習支援員の配置
- ◎ 夏季及び冬季休業中における「学習サポート」の実施
- ◎ 特別支援教育の充実を図るための支援員の配置
- ◎ 外国語教育の充実を図るための外国語指導助手の派遣

■佐呂間町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:38人）（中学校数:1校、生徒数:36人）

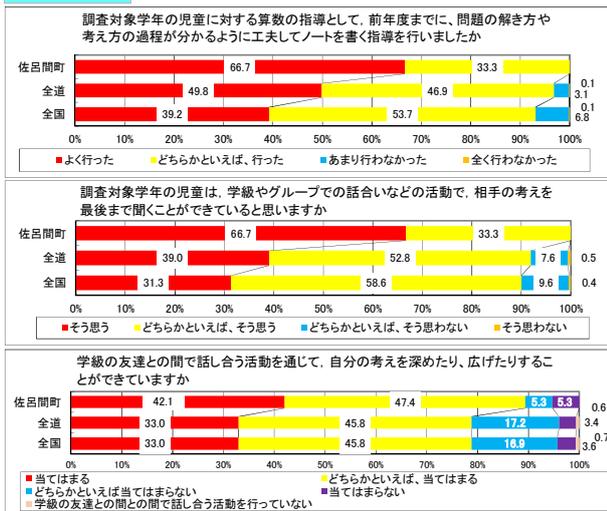
【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものの（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

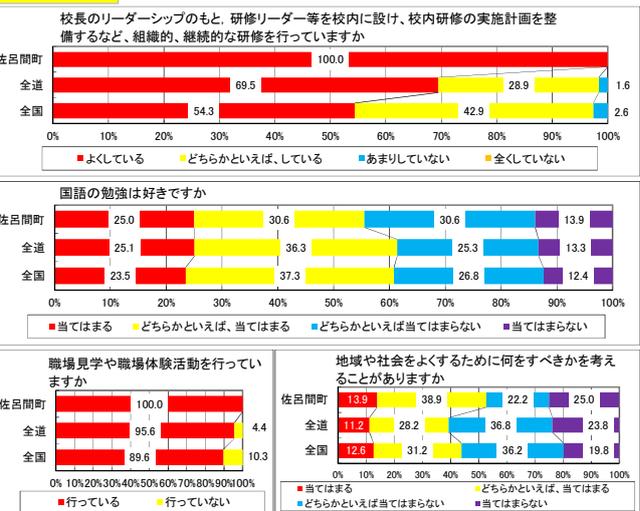


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

算数では、前年度までに、問題の解き方や考え方の過程が分かるように工夫してノートを書く指導を行ったことにより、「変化と関係」で、全道の平均正答率とほぼ同様となっていると考えられる。

学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができているような指導を行ったことにより、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると回答した児童の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行ったことにより、授業改善が図られ、国語の勉強が好きだと回答した生徒の割合が、全国を上回り、国語では、「話すこと・聞くこと」で全道の平均正答率に最も近くなっている。

職場見学や職場体験活動を行ったことにより、地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがあると回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。

【佐呂間町の学力向上策】

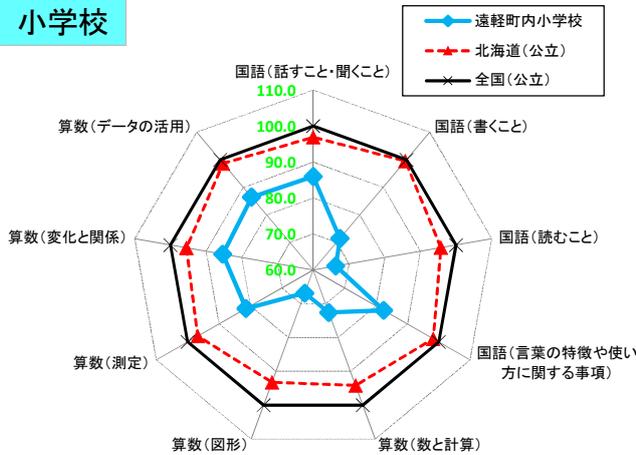
- ◎ 家庭学習の習慣化や長期休業中の補充的な学習サポートの実施、チャレンジテストの活用、学習規律の指導
- ◎ 教員の指導力向上のための各種研修会への参加奨励、指導主事訪問、ICT環境の有効活用
- ◎ 学力を向上させるための小学校・中学校・高等学校間の連携強化
- ◎ 1人1台端末を活用した「個別最適な学び」「協働的な学び」の充実

■遠軽町内の状況及び学力向上策（小学校数:8校、児童数:144人）（中学校数:7校、生徒数:128人）

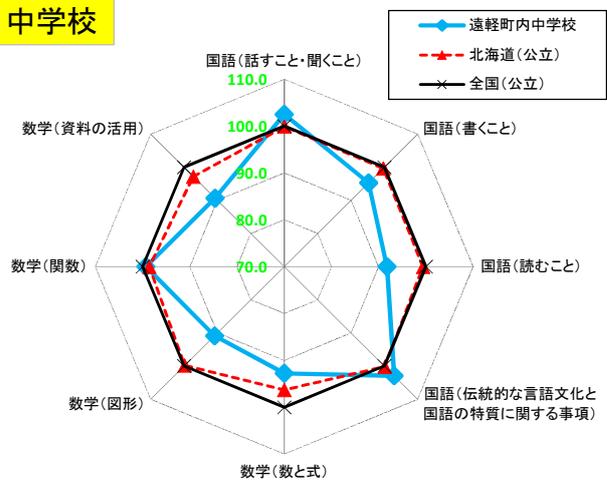
【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

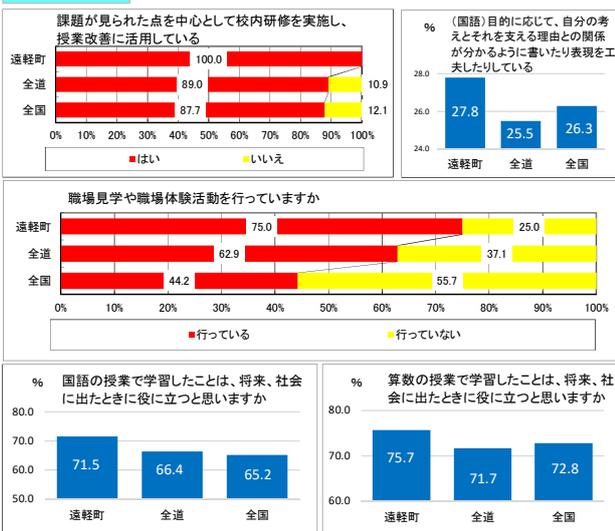


中学校

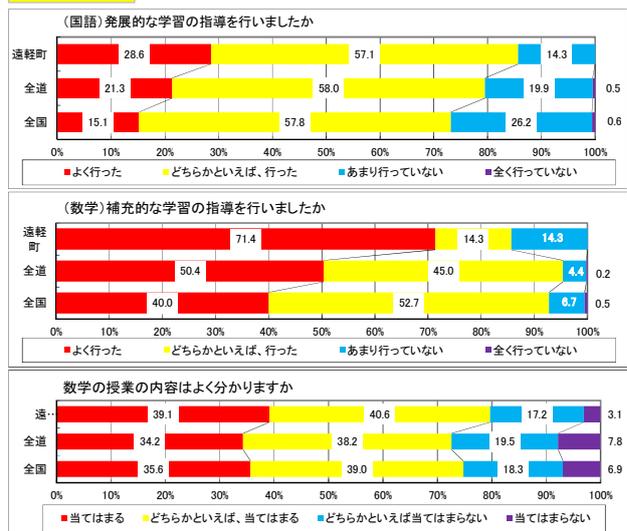


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

全国学力・学習状況調査において、課題が見られた点を中心として校内研修を実施し、授業改善に活用することにより、国語では、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように書いたり表現を工夫したりしていると回答した児童の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。

職場見学や職場体験活動を行う指導により、実態を伴った理解が図られるとともに、有用感が高まり、国語や算数において、授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した児童の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業では、発展的な学習の指導を行ったことにより、生徒の学習意欲が向上し、国語では、「話すこと・聞くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で、全国平均正答率を上回ったと考えられる。

数学の指導として、前年度までに、補充的な学習の指導を行うことにより、数学の授業の内容はよく分ると回答する生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、数学では、「関数」で、全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

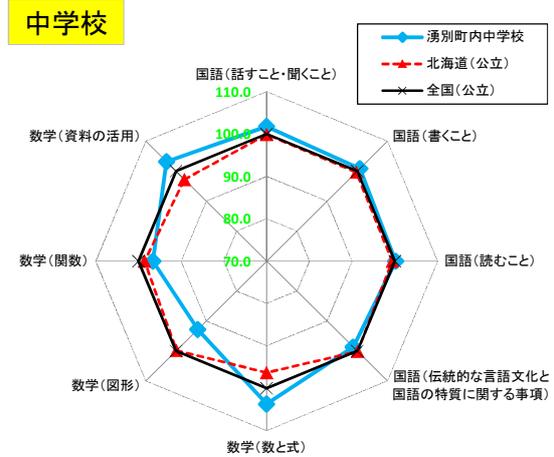
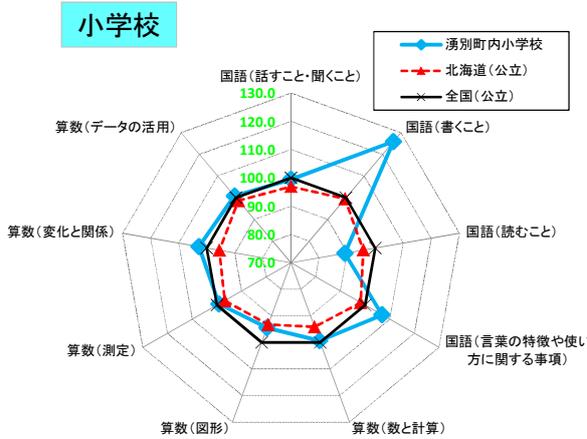
【遠軽町の学力向上策】

- ◎ コミュニケーション能力の向上と国際理解教育の推進
- ◎ 未来に誇れる文化や自然遺産、人材などの教育資源の活用
- ◎ 確かな学力の育成・定着を図るための教育用ICT機器の整備
- ◎ 外国語活動における言語や文化に対する理解を深めるための英語指導助手の配置

■湧別町内の状況及び学力向上策（小学校数:6校、児童数:53人）（中学校数:3校、生徒数:55人）

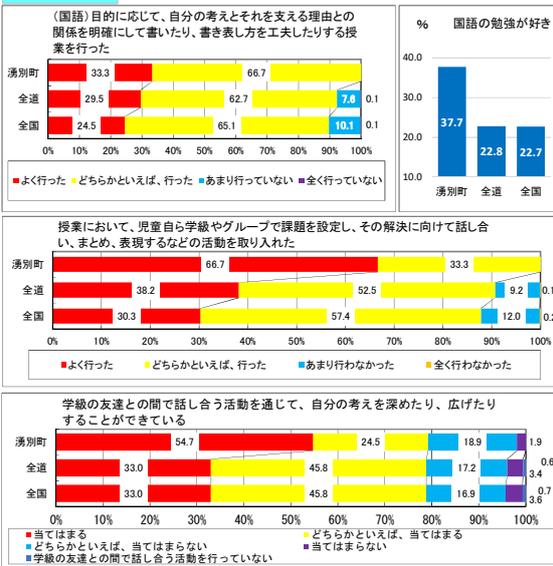
【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

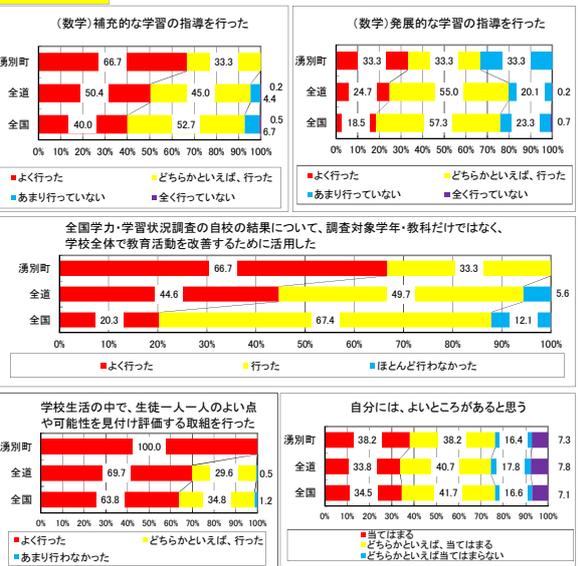


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、前年度までに、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして書いたり、書き表し方を工夫したりする授業を行ったことにより、学習内容の理解が深まり、国語の勉強が好きと回答した児童の割合が、全国及び全道の割合を上回るとともに、国語では、「書くこと」「言葉の特徴や使い方にに関する事項」で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

前年度までに、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの活動を取り入れたことにより、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができるという回答した児童の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

数学の指導として、前年度までに、補充的な学習及び発展的な学習を行ったことにより、学習内容の理解が深まり、「数と式」「資料の活用」で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために活用したことにより、国語では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する取組を行ったことにより、自分には、よいところがあると回答した生徒の割合が、全道及び全国を上回ったと考えられる。

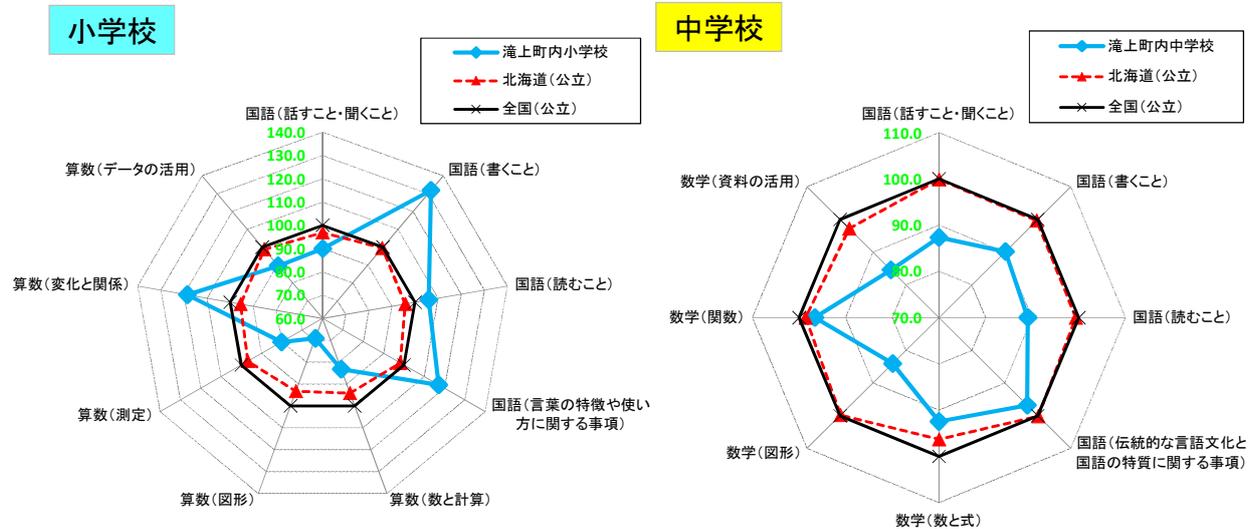
【湧別町の学力向上策】

- ◎ 湧別町型学校力向上事業に基づく授業公開や研修事業の実施
- ◎ 全国学力・学習状況調査等を活用した授業改善や学習習慣の確立
- ◎ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けたICT端末の効果的な活用
- ◎ 学力向上支援員等各種支援員の配置の充実
- ◎ 長期休業を活用した高校生ボランティア学習サポートの実施
- ◎ 学校図書館支援事業による読書活動の推進

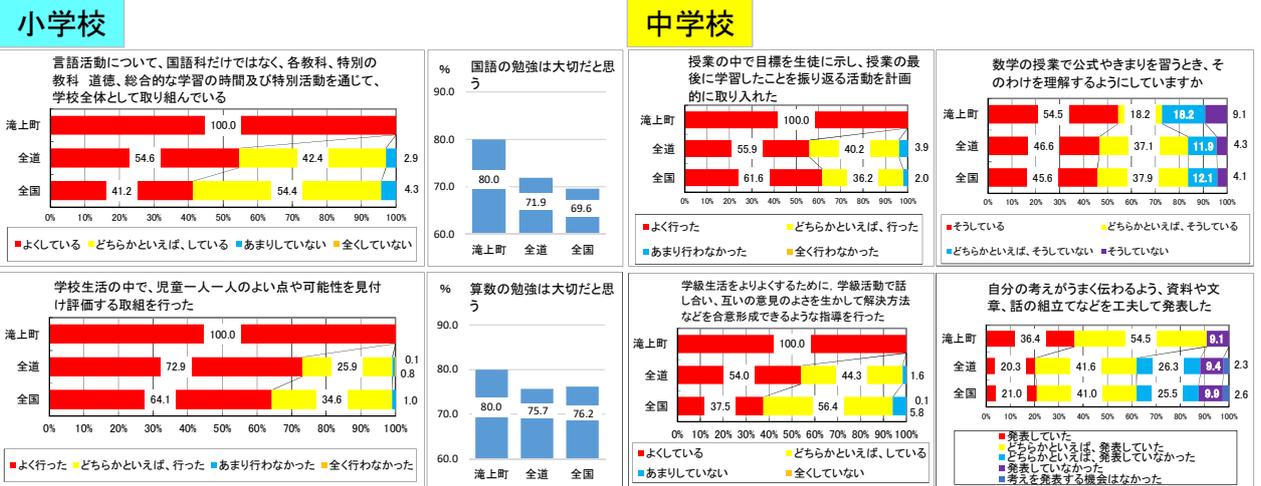
■ 滝上町内の状況及び学力向上策 (小学校数:2校、児童数:10人) (中学校数:1校、生徒数:11人)

【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものの(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
<p>言語活動について、国語科だけでなく、各教科、特別の教科 道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んだことにより、国語の勉強は大切だと思うと回答した児童の割合が、全道及び全国を上回るとともに、国語では「書くこと」「読むこと」「言葉の特徴や使い方に 関する事項」で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。</p> <p>学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見付け評価する取組を行ったことにより、算数の勉強は大切だと思うと回答した児童の割合が、全道及び全国を上回るとともに、算数では「変化と関数」で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。</p>	<p>前年度までに、授業の中で目標(めあて・ねらい)を生徒に示し、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れたことにより、数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている と回答した生徒の割合が、全道及び全国を上回るとともに、数学では「関数」で全国とほぼ同様になっていると考えられる。</p> <p>学級生活をよりよくするために、学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法などを合意形成できるように指導を行ったことにより、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表したと回答した生徒の割合が、全道及び全国を上回ったと考えられる。</p>

【滝上町の学力向上策】

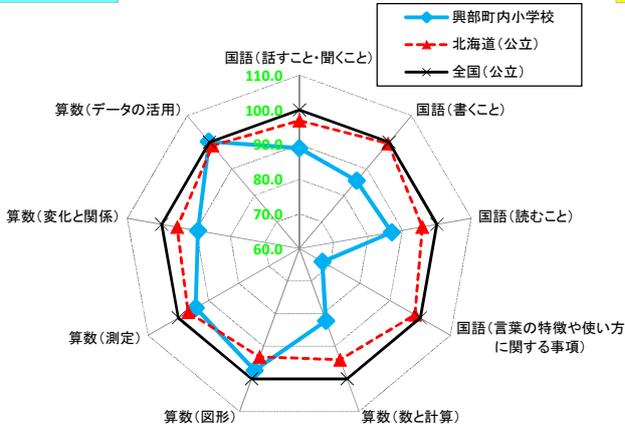
- ◎ 学習意欲の向上に効果的なICT機器等の導入
- ◎ 長期休業中の学習サポートやほっかいどうチャレンジテストの効果的な活用
- ◎ 家庭学習習慣を身に付ける取組の推進
- ◎ 望ましい生活習慣の定着に向けた取組の推進

■興部町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:26人）（中学校数:1校、生徒数:29人）

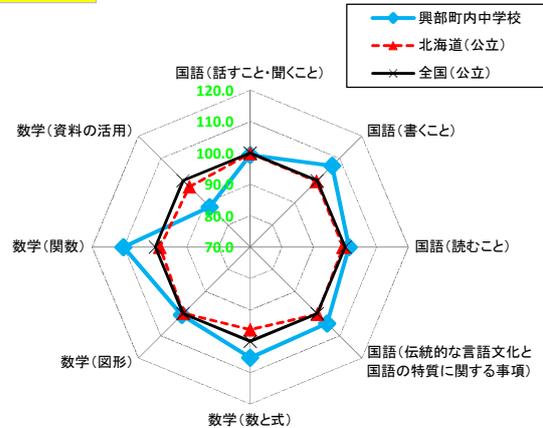
【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

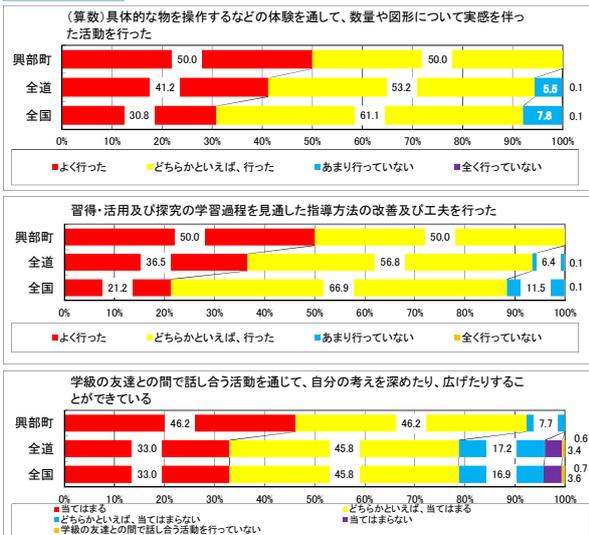


中学校

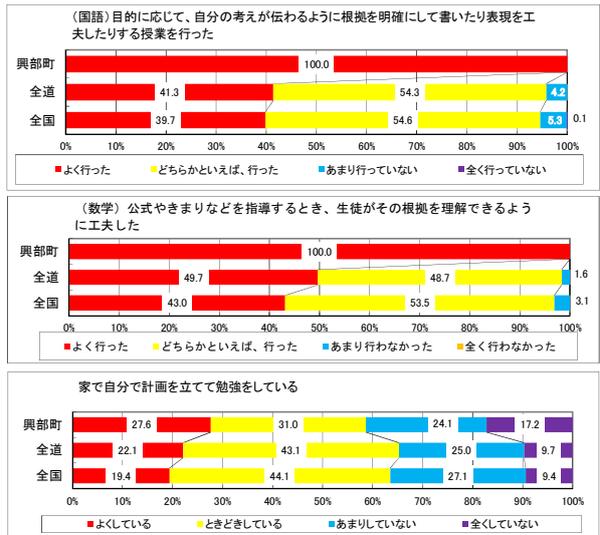


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

算数の授業において、前年度までに、具体的な物を操作するなどの体験を通して、数量や図形について実感を伴った活動を行ったことにより、児童は学習内容の理解を深め、「図形」「データの活用」で全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

授業において、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫を行ったことにより、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると回答した児童の割合が、全道及び全国を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、前年度までに、自分の考えがわかるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫したりする授業を行ったことにより、生徒は学習内容の理解を深め、家で自分で計画を立てて勉強をよくすると回答した生徒の割合が全道及び全国を上回るとともに、国語では、2領域1事項で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

数学の授業において、前年度までに、公式や決まりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫したことにより、生徒は学習内容の理解を深め、「数と式」「図形」「関数」で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

【興部町の学力向上策】

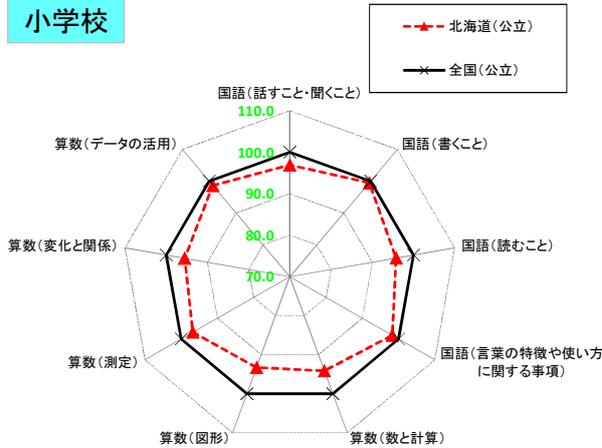
- ◎ 学生ボランティアを活用した補足的な学習サポートの実施
- ◎ 「家庭学習の手引き」を活用した家庭での学習習慣の確立
- ◎ 知能検査や標準学力検査の実施による学習状況の把握と個に応じた指導の充実
- ◎ 1人1台端末や大型提示装置などのICTを活用した授業の実施

■西興部村内の状況及び学力向上策（小学校数：1校、児童数：4人）（中学校数：1校、生徒数：5人）

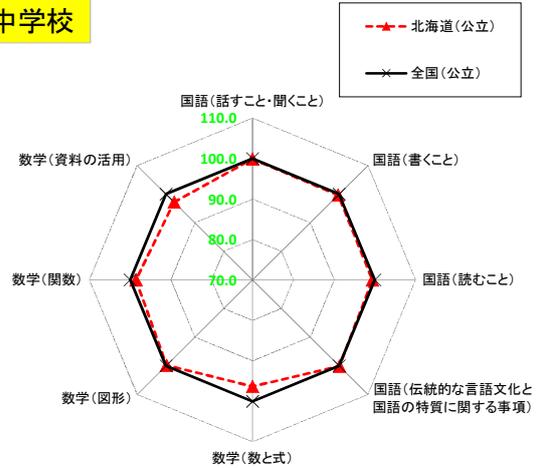
【教科全体の状況】※児童生徒数が少なく、個人が特定される恐れがあるため、西興部村の教科及び児童質問紙のデータは掲載しない。

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

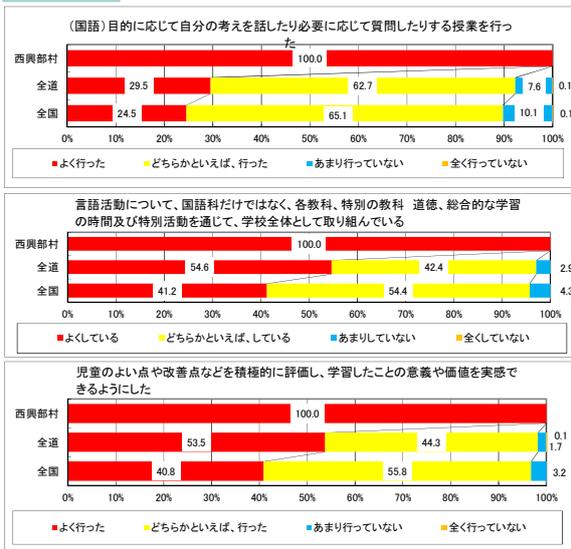


中学校

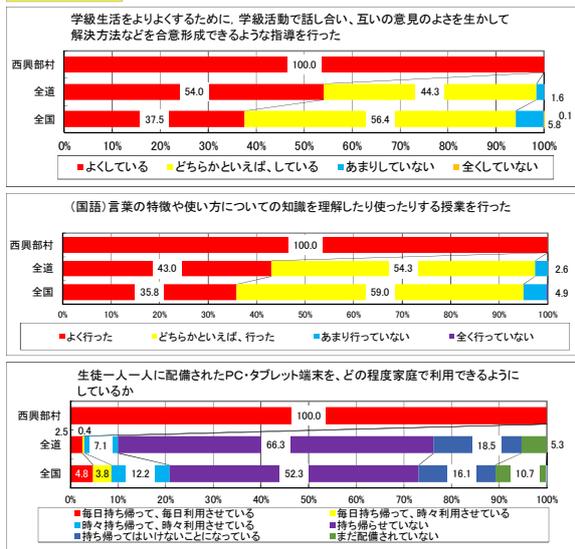


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
国語の授業において、前年度までに、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行ったと回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。
言語活動について、国語科だけではなく、各教科、特別の教科 道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいると回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。
前年度までに、児童のよい点や改善点などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにしたと回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。

中学校
学級生活をよりよくするために、学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法などを合意形成できるような指導を行ったと回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。
国語の授業において、前年度までに、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする指導を行ったと回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。
生徒一人一人に配備されたPC・タブレット端末を、どの程度家庭で利用できるようにしているかについて、毎日持ち帰って、毎日利用させていると回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。

【西興部村の学力向上策】

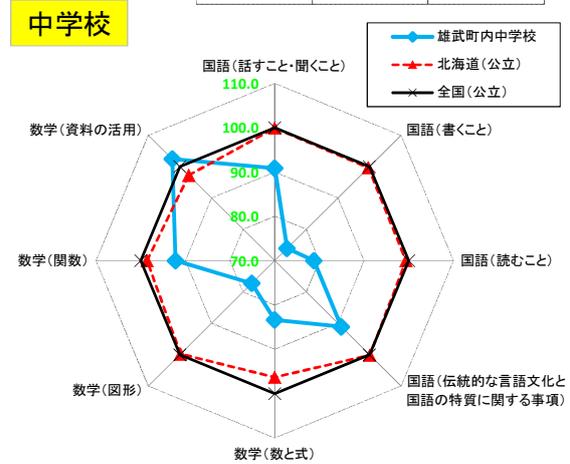
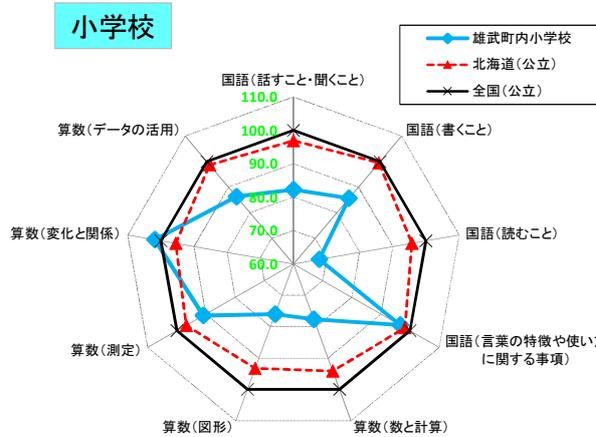
- ◎ 全国学力・学習状況調査等の結果を踏まえ、個に応じた指導の充実
- ◎ 村教委が中心となったICT環境の整備
- ◎ 「わかる・できる」喜びや楽しさを実感できる授業改善
- ◎ 主体的な学習態度、思考力・判断力・表現力等を育む言語活動や読書活動の充実
- ◎ 英語指導助手の学校及びサークルへの派遣による英語教育の充実

■雄武町内の状況及び学力向上策（小学校数：4校、児童数：25人）（中学校数：1校、生徒数：34人）

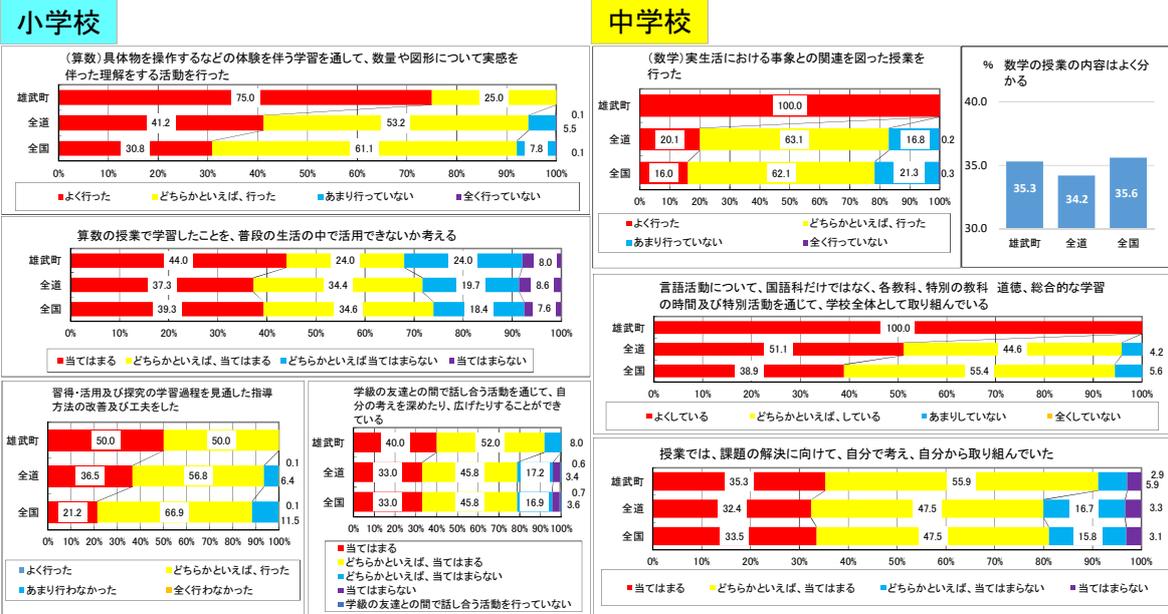
【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	56	55
算数・数学	61	50



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
算数の授業において、前年度までに具体物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感の伴った理解をする活動を行ったことにより、算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用したと回答した児童の割合が、全道及び全国を上回るとともに、算数では、「変化と関係」で、全国の平均正答率を上回ったと考えられる。	数学の授業において、前年度までに実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、数学の授業の内容がよくわかると回答した生徒の割合が、全道を上回るとともに、「資料の活用」で、全国の平均正答率を上回ったと考えられる。
授業において、前年度までに習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫を行ったことにより、学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていたと回答した児童の割合が、全国を上回ったと考えられる。	言語活動について、国語科だけではなく、各教科、特別の教科 道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んだことにより、1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと回答した児童の割合が、全国を上回ったと考えられる。

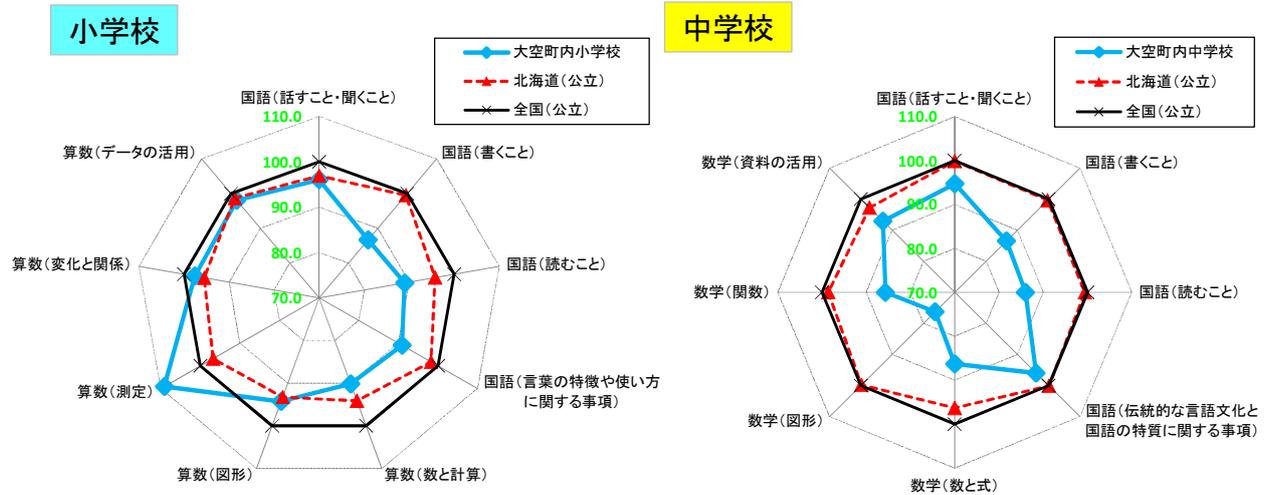
【雄武町の学力向上策】

- ◎ 全国学力・学習状況調査等の分析結果を踏まえた授業改善の取組
- ◎ ICTを活用した効果的な学びの推進及び家庭学習習慣の確立
- ◎ 学習規律の徹底及び授業のねらいや課題を明確にした問題解決的な学習の充実
- ◎ 教職員の自主的研修活動を奨励する教職員教育振興事業等の推進
- ◎ 読書活動の推進による「自ら学び、自ら考える力」の伸長

■大空町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:58人）（中学校数:2校、生徒数:60人）

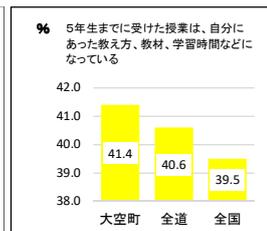
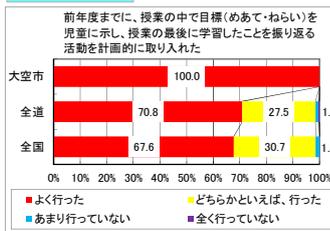
【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

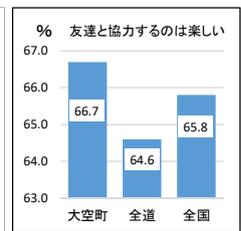
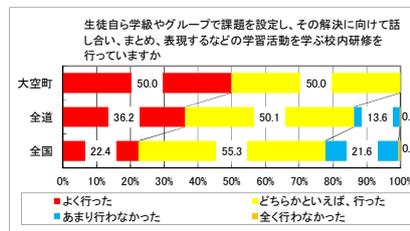
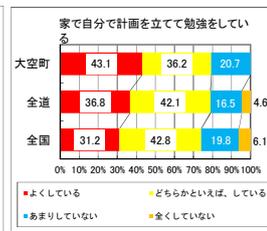
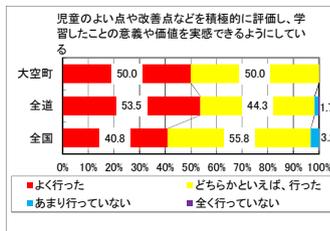
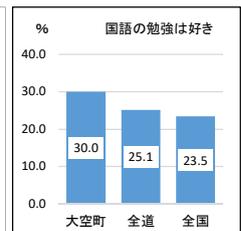
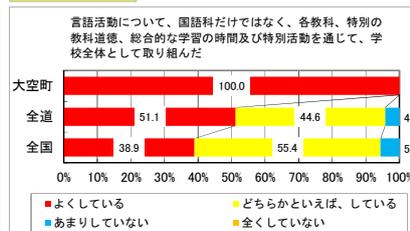


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

前年度までに、授業の中で目標(めあて・ねらい)を児童に示し、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れたことにより、5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていると回答した児童の割合が、全国及び全道を上回るとともに、算数では、「測定」で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

児童のよい点や改善点などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにしたことにより、児童の学習意欲の向上が図られ、家で自分で計画を立てて勉強していると回答した児童が、全国を上回ったと考えられる。

中学校

言語活動について、国語科だけでなく、各教科、特別の教科 道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んだことにより、国語の勉強は好きと回答した生徒の割合が、全国を上回るとともに、国語では、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で全国の平均正答率に最も近くなっていると考えられる。

生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行ったことにより、授業改善が図られ、友達と協力するのは楽しいと回答した生徒が、全国及び全道の割合を上回ったと考えられる。

【大空町の学力向上策】

- ◎ 少人数指導・習熟度別指導やティーム・ティーチング、長期休業中の補充学習(学習サポート体制)など、一人一人に対応したきめ細かな指導の充実
- ◎ 全国学力・学習状況調査結果を基にした学校改善プランの策定による学習指導の工夫・改善
- ◎ ICT機器を活用した誰一人取り残すことなく育成する「個別最適な学び」「協働的な学び」の充実
- ◎ ICT機器の活用により、「説明を聞く」に加えて「説明が見える」視覚情報を強化した授業づくり
- ◎ 家庭学習・宿題など、全校統一した取組による家庭における児童生徒の学習習慣の定着